

【学力・学習状況調査について】

木野山

文部科学省は、7月28日、小学6年と中学3年の全員対象で本年4月に実施した2022年度「全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)」の結果を公表しました。

調査の目的は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」となっております。

調査科目(学力テスト科目)は、通年は「小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語及び数学とする。」となっておりますが、今年度は小・中学校とも理科も実施されました。

調査結果の公表に当たっては、

公表する内容や方法等については、教育上の効果や影響等を考慮して適切なものとなるよう判断するよう求められていますが、教育委員会が独自に実施する学力調査の公表の取扱いについては、もとよりそれぞれの教育委員会の判断に委ねられること。とも有り、また前段に、「全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し〜」とあるように、分析には数値による比較検討も必要かと思えます。

本町では、結果概要については、平成23年度から公表されており、その年、平成23年度の県平均通過率との比較では、小学校は「国語」「算数」、中学校は「国語」「数学」「英語」において、教科別ではいずれも県平均を上回っており、深く領域別に見ると若干課題が見られたとなっております。

以降、毎年結果を公表され、その都度本町生徒の学びに関する基礎・基本的定着度や学力レベルに関して全国・広島県平均との比較や各都道府県平均との比較、またアンケートなどの状況調査を通じて本町生徒の持つ生き抜く力の育成度や、特徴・独自性などをしっかりと掴み、課題やその解決に向け研究会の開催など鋭意努力され、本町の学校教育の充実が図られております。

結果につきましては、教育委員会をはじめとして関係者各位の努力により、「学力レベル」は年により若干の上下が有りますが、概ね毎年、全国・県平均を上回っており、教科によっては県レベルで全国一位の都府県を上回る事例もあり、本町の児童生徒の学力レベルの高さを近隣に誇るべきものと高く評価するものです。

昨年の、教育長答弁では、

県平均と比較して、小学校では、国語−3.0%、算数−2.0%であり、県平均を下回りました。中学校では、国語+9.0%、数学+4.0%であり、県平均を上回ることができました。特に国語においては、県平均を大きく上回っています。

平均正答率からみると、小学校国語では読むこと、算数ではデータの活用に課題がみられます。中学校国語では、書くこと、数学では図形が特に高い正答率となっています。

今後、学力の定着に向け各学校ごとに詳細な分析を行い、今後の指導に生かしていきたいと考えています。

本年度の結果はどうであったのか。

また、例年の課題との比較状況、今後の対応策についてもお伺い致します。

馬屋原教育長

全国学力学習状況調査については、今年度は、小学校第6学年で、国語、算数、理科、中学校第3学年では、国語、数学、理科で4月に実施されました。

結果についてですが、小学校においては、平均正答率、国語69%、算数68%、理科71%です。中学校では、国語76%、数学48%、理科57%です。

県平均と比較すると、小学校では、国語+2%、算数+4%、理科+5%でありすべて県平均を上回りました。中学校では、国語+7%、数学-2%、理科+8%で数学のみ県平均を下回っています。

平均正答率からみると、小学校国語では「書くこと」、算数では「データ活用」が高く、理科ではすべての領域で県平均より高く3教科ともに記述式が高い正答率となっています。国語の「読むこと」「話すこと、聞くこと」については、今年度も課題です。

中学校国語では、学習指導要領の内容別においても、すべて県平均より高く、理科の領域別においてもすべて正答率は県平均より高くなっています。

数学では、「数と式」「図形」の領域において県平均より低く、特に「数と式」では-8.6%であり課題があると考えています。

現在、各学校において、学力の定着に向け、それぞれの教科について詳細な分析を行っており、課題の把握や対応策等明確にし、学校全体で学習指導の充実を図っていききたいと考えています。

木野山

いつもの通り、県平均レベルと本町レベルを比べると

あくまで市町村平均が県平均なので、単純比較は出来ない事をご了承頂きたい。

- ・小学校国語は、全国県平均レベルで3番目の東京・福井県と同じ69ポイント
- ・小学校算数は、全国1位の石川県69ポイントより1マイナスの68ポイント、ちなみに全国2位の東京・福井県は67ポイント
- ・小学校理科は、全国1位の秋田県と同じ71ポイント
- ・中学校国語は、全国1位の石川・秋田県の73ポイントより3ポイント+の76ポイント
- ・中学校数学は、全国41位の長崎県と同じ48ポイント、ちなみに全国1位は石川県で58ポイント
- ・中学理科は、全国1位の石川県の55ポイントより2ポイント+の57ポイント

中学校数学を除いて本町の学童生徒の学力レベルはかなりの高水準にあると高く評価されると思います

本年8月6日付けの中国新聞によると

「文部科学省が28日に結果を公表した全国学力・学習状況調査で、県内の公立校の平均正答率は、中学3年が数学で全国平均を下回り、国語と理科は同水準だった。小学6年は、3教科全てで全国を上回った。これは広島県の事です。

県内の中学3年の数学は50%で全国の51.4%を下回った。素因数分解や1次方程式の問題で全国に比べて正答率が低く、県教委は「基礎的な学力の定着のための指導に力を入れる必要がある」と分析している。

県内23市町別の最高は、中学3年がいずれも神石高原町の国語76%、理科57%と、坂町の数学60%。小学6年は、いずれも大崎上島町の国語75%、算数71%と、海田町の理科74%となっている。」～

広島県も中学校数学が全国国公立平均を2ポイント下回っていることを問題としているようです。残念ながら本町についても、中学3年生数学においては広島県トップの「坂町」と比較すると△12ポイントとなっています。

先程の教育長答弁でも、小学校国語の読む・話す・聞くこと、中学校数学の数(すう)と式に課題があるとされていますが、改めてどのように評価されているのか、また対応策をお伺いしたい。

馬屋原教育長

分析を頂きありがとうございます。

数学が県平均を下回っていることは、県でも分析をされているが本町においても素因数分解というのが一番の1にあるわけですがこの正答率が非常に低い、これは両中学校共にそうですが、色々状況を見てもみるとr中学校一年生の時に押さえておくべき内容であるという事でありまして、これは二年生でもある程度出てきますが、反復練習であるとか基礎基本の定着が不十分であったのではないかと考えています。これから各学校の分析が出てくると考えています。

その他については、特に理科が小中学校共に高い正答率を示している。少人数であることの良さを生かして理科の実験がきちっと行われていますし実験をすることができる環境にある事が非常に大きいのではないかと考えています。

また、国語につきましても平均正答率が高いのですが、神石高原町で以前から手掛けております読書の町という事で読書習慣を定着させるという取り組みを長年取り続けていることの成果が表れている。文章を読んでそして答える、特に今年度は書かせるというところのポイントが非常に高かった。例えば二つの条件を合わせて50字以内で書きなさいという問題においては全国平均を大きく上回っているという状況が見て取れました。

今のような状況ですが、数学につきましてはさらに分析を重ね今後の指導に生かしていかなければいけないと思っております。

木野山

しっかりと分析をお願いいたします。

あと一点だけお伺いします

「確かな学力の向上」という項目において、毎年「事務の点検・評価の報告書」の中で取り上げられていますが、我々一般の者にとっては、年に一回公表される学力テストの結果しか判断材料がありません。

毎年の評価の結果を見ていると、ランクも県レベルでは例年さほどの変化もないので、おおむね学力の評価は正当な範囲にあると思います

その前提で行きますと、それぞれのテストの設問は毎年各科目とも目的を持って行われておりそれに従って課題の把握・分析を行い対応策の検討・実施となります。

もう一つ言えば、小学校6年生の結果は小学校時代での集大成、中学3年生の結果は中学校3年間の集大成であり、それぞれの課題が各学年での対応策に繋がり、また中学校、高等学校へと引き継がれるのだと思います。その結果が如実に表れるのは、小学校6年生のテストで判明した課題が解決されたかは、中学校3年生の結果で判断出来るのではないかと思います

先程述べたように、おおむね評価は正当な範囲にあるとすれば、毎年の「事務の点検・評価の報告書」の中で、「確かな学力の向上」という項目において、改善策として指摘されていますが、「授業力向上に向けた研修の充実や小中学校の教員が研究授業をもとに協議を行い、小中連携の視点での協議を充実させる」事が重要なのではないかと考えます。と書いてあります。

ちなみに、小学校6年生の時に受けたテストと中学校3年生の時に受けたテスト、今の中学校3年生は令和元年度小学6年生の結果を基に分析研究をされておれば本年度中学3年生の結果に表れているとみても良いと思います。

よくわかりませんが今回は小学校6年生の算数を比べると、国語は平均の成績でしたが、算数はものすごく良かった。中学校3年生になると国語はすごく良いにも関わらず、数学は問題があった、と結果が成っている。

令和3年度学力テスト小学6年生の結果と課題(B評価)となっていますが、小学校と中学校の教育連携においてどの様に実践をされ小学校時の課題が中学校においてどのように引き継がれて展開をされているのか。小中連携においてこの点どのようにされているのか。その点お聞きしたい。

馬屋原教育長

先程言われた小学校6年生の時の点が中学校3年生で変わってくることは、様々な条件がありますので同じ条件で進んでおれば良いのですが条件が変わってくると幾らかは変化があると思っています。

小中連携ですが、神石高原町では神石高原町教育研究会という組織をかなり前から立ち上げています。そこで小学校、中学校、また油木高校の先生も含めていますが、小中高等学校で毎年3回程度教科あるいは領域ごとに研究を行っている。あるいは中学校区ごとに研究を進めています

小学校の先生と中学校の先生が同じ教科の中に入りお互いに研究を行う場はあります。常に効

果が出てくるという事は分かりませんが継続することは大きな成果ではないかと思っております。

もう一つは、小中学校を通じて3年位前から安心して学べる学習環境を作って行こうと教育委員会のほうから指導しています。例えば安心して学べるというのは学習規律をきちっと決めてみんなのでその授業に取り組もう、安心して発表ができる、みんなの発表をきちんと聞ける、そういう体制をとるという事が学力にも大きく関わってくるのではないかと。そういった取り組みを進めてまいります。

学習規律がきちんとしていいると学習指導を効率的に進めていく事が出来る。先生方は質の高い学びを創造することができる。そしてそれをクラス単位ではなく学校全体で取り組んでいく。それを小中学校で進めていくという事を実施いたしました。

今回の質問紙調査においても、授業への主体的な参加であるとか、仲間と共に学びを高めあう項目では肯定的評価が全国を大きく上回っているという状況で、生徒が安心して学ぶ事が出来る学習環境づくりであったり学習規律であったり心を育てる教義であったり、学力に大きく関係している事項であることは中学校においても分析ができております。私も大切なことと思っております。そういった意味での小中連携も取り組み進めている状況です。

木野山

小中連携の中で学力だけでなく色々な方面で取り組まれ子供たちの力をつけていくことはとても大事なことだと思います。

思わぬ結果が出ていたので学力の面だけでなくどのようにされているのか気になりましたのでお聞きしました。そういった意味で年に何回もの研究会と全体で学力を高めるために努力をされていることがよく分かりました。今後ともしっかりと続けて戴いて本町の生徒たちの学力向上に、あるいは色々な面での生活様式の向上というか主体的な行動がとれる子供たち、町に出てもしっかりと頑張れる子供たちの為に教育体制の充実をお願いしたい。

ある意味でこういった社会教育を充実させるわが町の文化を大事にすることやまちづくりに繋がっていくと思いますのでよろしく願いしたい

確かな学力の向上充実がまちの評価におけるメルクマールとなるのではないかとと思っております。よろしく願いしたい。